

企画展

養育院の「院長さん」

父となり祖父となり曾祖父となり



2023年

3月18日「土」— 5月28日「日」

休館日 月曜日、3月22日「水」、5月2日「火」、5月9日「火」
開館時間 10時〜16時（最終入館15時30分）

※新型コロナウイルス感染症等の状況により予定が変更となる場合があります。ご来館の際は最新の開館情報を当館WEBページにてご確認ください。

主催 公益財団法人 渋沢栄一記念財団 渋沢史料館
後援 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター



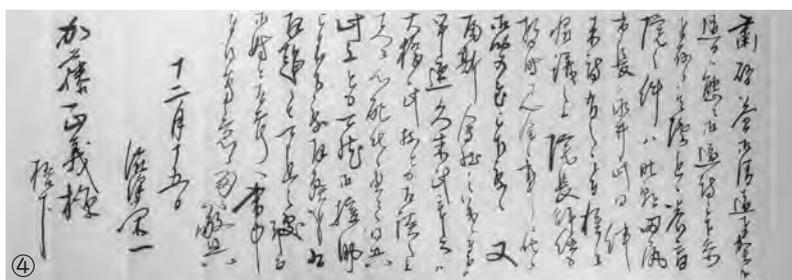
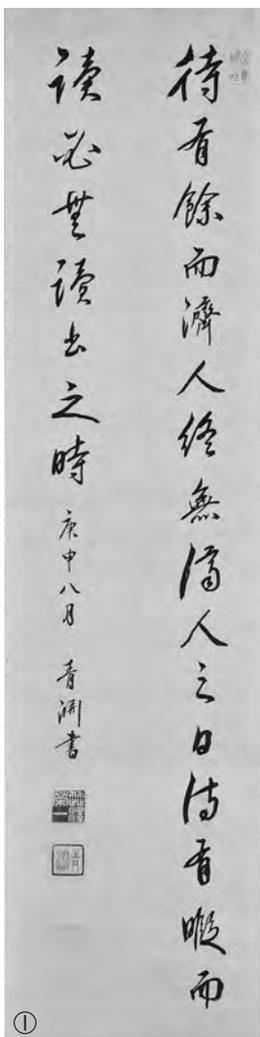
公益財団法人 渋沢栄一記念財団
渋沢史料館
Shibusawa Memorial Museum

渋沢栄一は多数の企業・経済団体などの設立・育成に関わった一方で、教育・福祉・医療など数多くの社会事業にも関わりました。その中で、最も長く関与した事業は、東京の「養育院」です。栄一にとって、養育院は社会事業に関わった出発点であり、その後の活動の基盤でした。

養育院は、子供から老人まで、さまざまな理由で生活が困難となった人々を保護し、治療や教育などを行うための福祉施設でした。栄一は養育院と明治7年(1874)から関わるようになり、明治12年(1879)から亡くなる昭和6年(1931)までの約52年間にわたり、院長(時期により委員長)を務め続けました。

栄一は養育院で保護された人々の中でも、貧困・病氣・孤児・棄児などさまざまな事情を抱えた児童たちをとりわけ気にかけていました。栄一は保護児童たちへ、自身は「父」や「祖父」、「曾祖父」であると語りかけ、また児童たちからは親しみを込めて「院長さん」と呼ばれていました。

養育院長として栄一が果たした役割は多岐にわたりますが、本展では特に保護児童たちとの関係について取り上げながら、「院長さん」と慕われた栄一の活動と想いをご紹介します。



関連講演会

演 題：“論語と算盤”にみる渋沢栄一の福祉事業への思い

日 時：2023年5月14日(日) 13時30分～15時

講 師：井上 潤 公益財団法人渋沢栄一記念財団業務執行理事・渋沢史料館顧問

会 場：渋沢史料館

定 員：30名(先着順・定員に達し次第、締め切り)

費 用：無料(但し入館券が必要)

申込方法：申込フォームにて(当館WEBサイト内・3月18日受付開始)

掲載資料 ※全て当館所蔵

[表面] 養育院巣鴨分院での戴人会(昭和4年)

[裏面] ①渋沢栄一書幅「待有餘而濟人終無濟人之日」(大正9年)※小平忠生撮影、②養育院幹事田中太郎と栄一(昭和6年・『東京市養育院月報』363号より)、③「院長さんの御邸へよばれて」(昭和4年)、④渋沢栄一より加藤正義宛書状(大正7年)、⑤榮翁公記念会兼院児大会(明治43年)、⑥養育院巣鴨分院でのひな祭り(昭和3年・『昭和2年度東京市養育院年報』より)

会 期：2023年3月18日(土)～5月28日(日)

休 館 日：月曜日、3月22日(水)、5月2日(火)、5月9日(火)

開館時間：10時～16時(最終入館は15時30分)

※新型コロナウイルス感染症等の状況により予定が変更となる場合があります。

ご来館の際は最新の開館情報を当館WEBページにてご確認ください。

会 場：渋沢史料館

入 館 料：一般300円、小中高生100円

飛鳥山3つの博物館3館共通券

一般800円、小中高生320円



公益財団法人 渋沢栄一記念財団
渋沢史料館
Shibusawa Memorial Museum

〒114-0024
東京都北区西ヶ原2-16-1
TEL 03-3910-0005
<https://www.shibusawa.or.jp>

